

日本ハロウィン受容小史

佐々木 隆

A Brief History of Halloween in Japan

Takashi Sasaki

日本ハロウィン受容小史

佐々木 隆

A Brief History of Halloween in Japan

Takashi Sasaki

【キーワード】 ハロウィン、パレード、菓子、コスプレ、イベント

プロローグ

クリスマスやバレンタイン・デーのように外来の祝祭も日本にすっかり定着した。この10年程の間に急速に大きな盛り上げりを見せているのがハロウィン(Halloween)である。クリスマスやバレンタイン・デーと異なり、恋愛やプレゼントのない祝祭であるが、コスプレ等により異常な盛り上げりを見せている。日本のハロウィン受容史を辿り、日本でのハロウィンが「コスプレ」を中心にしたものになっていることを明らかにしたい。

1 「ハロウィン」とは

Lisa Morton. *The Halloween Encyclopedia* (2003)によれば、“Halloween”「ハロウィン」とは“All Hallows’ Even”あるいは“the night before All Saints”, “All Hallow’s Day”が短縮されて「ハロウィン」となったと言う。(Morton a 90)ハロウィンは収穫祭と死者の魂が現世に戻って来る2つの祝祭の意味がある。(Morton a 90)本来はキリスト教に先立つドルイド教が形成したケルト文化の“Samhain”(サムヘイン祭)に起源を持つが、9世紀にはすでにキリスト教がサムヘイン祭の習慣を取り入れ、All Saints’ Day(万聖節)の前夜に行われるようになり(Bacon 726)、様々な変容を経ている。(Rogers 19)

イギリスでは11月5日が“Guy Fawkes Day”「ガイ・フォークス・デー」で、子供が近所の家々を巡って硬貨をもらい歩いたり、花火を打ち上げるなどの風習がある。日本では「火薬陰謀事件」(Gunpowder Plot)名で知られているが、1605年にイングランドで発覚したロバート・ケツビーを首謀者とするジェームズ一世に対する政府転覆未遂事件である。11月5日未明に陰謀者の一人ガイ・フォークスが捕えられ処刑されたことを記念して翌年より「ガイ・フォークス・デー」としてイギリスでは祝われているが、ハロウィンと時期も近いことからガイ・フォークス・デーと混同されたり、結合した。(Morton a 86-87)これに加えて、19世紀頃からその前日に“Mischief Night”(Mischief Night)「ミステフ・ナイト」が行われるようになった。これがアメリカにも紹

介されると、ハロウィンの前夜祭として認識されるようになった。(関口b 137) ミスチフ・ナイトでは「いたずらする日」でも知られている。(Morton a 124-125) ハロウィンの名のももで行われるようになった経緯もあるようだ。ドイルド教からキリスト教、さらには政治的な陰謀の阻止を祝うなどの諸事情が10月下旬から11月上旬となったこと、さらにこれがアメリカに伝わると“Trick or Treat”が全面に中心となり、子供のイベントになったが、アメリカでもジョン・カーペンター監督「ハロウィン」(1978)やヘンリー・セリック監督「ナイトメア・ビフォア・クリスマス」(1993)等から大人の関心が高まったとも言われている。(Morton b 116) ハロウィンはアイルランド・イギリスからアメリカへ(Rogers 34-48)、アメリカから日本への変遷で宗教的な意味合いを徐々になくした。このためハロウィンはアメリカの祝祭日・行事としているものもある。ハロウィンと言えば、“Jack-o'-Lantern”「ジャック・オー・ランタン」で知られるかぼちゃ(本来は“turnip”「かぶ」)のランタンもアメリカにわたり、かぼちゃへと変わった。(Morton a 105)

2 日本のハロウィン受容史

日本のハロウィンはケルト文化を背景にしたヨーロッパ(アイルランドやイギリスを中心に)から、あるいは歴史の変遷を経て受容されたのではなく、アメリカを経由したハロウィンが日本に移入された。辞典類ではハロウィンをアメリカの祝祭日(新村 2130)、キリスト教の祝祭日(加藤 156)などとしているものもある。

日本にいつハロウィンが受容されたかははっきりしないが、戦後横浜本牧では進駐軍と周辺住民の子供が11月下旬にハロウィンを見習って「かぼちゃ祭」と称して、仮装し、お菓子をもらうという楽しみがあったとの指摘もあるが、詳細は不明である。(本牧のあゆみ研究会 93)(関口a 163)(関口c 23)

マスコミが取り上げたものとして「朝日新聞」の2つの記事を紹介しておきたい。1987年10月28日の「朝日新聞」(第19面)には次のような記事内容がある。

東京・原宿の玩具専門店は四年前から、仮装した在日外国人の子どもたちを招待して、ハロウィンのパレードを始め、若者荷人気のある代官山でも地元の商店会が昨年街の活性化を狙った一般参加の仮装パレードをスタートさせた。さらに若者が集まる六本木のディスコなどではハロウィンの夜に仮装パーティをすところも出てきた。

その後、9月下旬から特設売り場を設けるハロウィン商戦が活性化したことが書かれている。銀座の松屋本店によれば、ハロウィン商戦の本音として次のように語られている。

十月はクリスマス前で、これといった季節催事もない時期のハロウィンは刺激的な企画として、育てていきたい。

百貨店が取り扱うのはおもにファンシーグッズ、キャンディから小物、衣料品、ギフト商品にまで拡大されたと言う。

1991年10月19日の「朝日新聞」(夕刊、第9面)では百貨店等のハロウィン商戦について触れた

記事を掲載している。

十六年前からハロウィン商品を手掛けている菓子メーカーのモロゾフは「やっとビジネスになり始めた。今年の売り上げは二億五千万円は堅い」と強気。ファンシーグッズのサンリオも、百四十点もの関連商品を出している。

百貨店でも、店員が魔女の格好をしたり、米国直輸入の仮装用品を並べたり。週末に子供を店舗を集めて仮装大会を開くなど、イベントも盛りだくさんだ。

ここでもこのハロウィン商戦について1987年の記事と同様の内容が掲載されている。

秋には決め手となる商戦がなかったということ。夏のお中元、行楽シーズンと、十二月のお歳暮、クリスマス商戦との間が抜け落ちており、その間を埋める客寄せ用の記念日がほしかったというわけだ。

一般に広まった日本のハロウィン受容の主な要因は商業目的ということになる。ただし初期の頃にはお菓子の販売促進が目的であったということだ。

以降は日本のハロウィン受容に関する商業目的の事項を時系列で紹介しておきたい。ハロウィンのイベントやゾンビ映画等の公開も少なからずコスプレの背景にあるものも含め、日本に影響を与えたと思われる海外の状況も一部含まれる。

戦後の横浜本牧

※戦後横浜本牧では進駐軍と周辺住民の子供が11月下旬にハロウィンを見習って「かぼちゃ祭」と称して、仮装し、お菓子をもらおうという行事があった。但し、詳細な年代や内容は不明（本牧のあゆみ研究会 93）

1968年10月 ジョージ・A・ロメオ監督『ナイト・オブ・ザ・リビングデッド』（アメリカ）

※ゾンビの原作を作り上げる。日本では劇場未公開映画。

1973年12月 ウィリアム・フリードキン監督『エクソシスト』（アメリカ）

※日本公開は1974年7月。

1976年 洋菓子メーカー、モロゾフ

※ハロウィンを利用したお菓子の販売促進を始める。商業目的でハロウィンを利用した最初の試みか？（モロゾフ）

1975年 8月 ジム・シャーマン監督『ロッキー・ホラー・ショー』

※日本公開は1976年8月。

1978年 9月 ジョージ・A・ロメロ監督『ゾンビ』（イタリア・アメリカ）

※日本公開は1979年3月。

1978年10月 ジョン・カーペンター監督『ハロウィン』（アメリカ）

※日本公開は1979年8月。オカルト映画。

1979年 8月 ルチオ・フルチ監督『サンゲリア』（イタリア・アメリカ）

※日本公開は1980年5月。

1980年 5月 ショーン・S・カニンガム監督『13日の金曜日』（アメリカ）

- ※日本公開は1980年8月。
- 1981年 5月 トニー・メイラム監督『バーニング』（アメリカ・カナダ）
 - ※日本公開は1981年8月。
- 1983年 4月 東京ディズニーランドのアトラクション「ホーンテッドマンション」。
 - ※1983年4月15日、東京ディズニーランド開園と同時にオープン。
- 1983年10月 原宿キディランドによるハロウィン仮装パレード
 - ※日本で最初のハロウィン仮装パレードか？
- 1983年11月 マイケル・ジャクソン「スリラー」
 - ※13分34秒のミュージック・ビデオでゾンビダンスが話題となる。
- 1984年11月 ウェス・クレイブン監督『エルム街の悪夢』（アメリカ）
 - ※日本公開は1986年5月。
- 1985年 7月 ジョージ・A・ロメロ監督『死霊のえじき』（アメリカ）
 - ※日本公開は1986年4月。
- 1986年 1月 「ハロウィン」（朝日ソノラマ）創刊
 - ※ホラー・オカルト少女マンガ誌。
- 1987年10月 「朝日新聞」（10月28日）
 - ※「ハロウィン 不気味さが受けてます」「若者は仮装パーティー イベント作りのデパート」
 - ※「今年は九月下旬から、ほとんどの百貨店が特設売り場を設けるなど、一気にハロウィン商戦が活性化した」
- 1991年10月 「朝日新聞」（夕刊、10月19日）
 - ※「秋に決めてがないとデパートが言ったハロウィンはギフト祈祈念日!？」
- 1992年10月 日本人留学生射殺事件（10月17日）
 - ※アメリカ・ルイジアナ州の日本人留学生がハロウィンパーティーへ出掛けましたが訪問先を間違え、仮装していた。訪問先の家では不信感をもち、“Freeze”（動くな）と警告したが、静止を聴かなかったため、銃で撃たれ死亡した事件。
- 1993年10月 ヘンリー・セリック監督『ナイトメア・ビフォア・クリスマス』（アメリカ）
 - ※日本公開は1994年10月。
- 1997年10月 カワサキハロウィン（10月25日、26日）
- 1997年10月 東京ディズニーランドの「ディズニー・ハッピー・ハロウィーン」（10月31日限定）
- 2000年10月 東京ディズニーランドの「ディズニー・ハロウィーン」
 - ※10月1日～10月31日。
- 2000年 8月 ゾンビウォーク
 - ※Gencom2000（Gen Con gaming convention 2000）、アメリカ・カリフォルニア州で始まる。
- 2002年 3月 ポール・W・S・アンダーソン監督『バイオハザード』（アメリカ・イギリス・ドイツ）
 - ※原作はゲームソフト。日本公開は2002年8月。
- 2002年10月 東京ディズニーランドの「ディズニー・ハロウィン・パレード」
 - ※10月1日～10月31日。パーク内の大人の仮装は10月31日限定でOK。
- 2003年11月 オブ・ミンコフ監督『ホーンテッドマンション』（アメリカ）
 - ※日本公開は2004年4月。

- 2004年 9月 アレクサンダー・ウィット監督『バイオハザードII アポカリプス』（アメリカ・イギリス・ドイツ）
※日本公開は2004年9月。
- 2005年 9月 東京ディズニーランドの「ディズニー・ハロウィン・パレード」
※9月12日～10月31日。パーク内の大人の仮装が3日間となる。
- 2006年 6月 エリック・フォースバーグ監督『ゾンビ・オブ・ザ・デッド 感染病棟』（アメリカ）
※日本では劇場未公開。
- 2006年10月 世界ゾンビの日 (World Zombie Day)
※10月10日。
- 2007年 9月 ラッセル・マルケイ監督『バイオハザードIII』（アメリカ・イギリス・ドイツ）
※日本公開は2007年11月。
- 2007年12月 マイケル・ドハティ監督『ブライアン・シンガーのトリック・オア・トリート』（カナダ・アメリカ）
※日本では劇場未公開。公開を2009年としているところもあるが、ワーナーブラザーズのHPより公開年月を2007年12月公開とした。(WarnerBros.com)
- 2009年 9月 東京ディズニーシーでもディズニー・ハロウィンを開催。
※ディズニーリゾート全体でディズニー・ハロウィンを実施。
- 2010年 9月 ポール・W・S・アンダーソン監督『バイオハザードIV アフターライフ』（アメリカ・イギリス・ドイツ）
※日本公開は2010年9月。
- 2010年10月 日本ハッピーハロウィン協会設立。
- 2010年10月 フランク・ダウボン企画『ウォーキング・デッド』（アメリカTVドラマ）
※2010年11月にシーズン1、日本で放映。
- 2011年 9月 ユニバーサル・スタジオ・ジャパンの「ハロウィーン・ホラーナイト」（9月23日～10月31日）
※ユニバーサル・サプライズ・ハロウィーン（2011年9月6日～11日3日）
- 2012年 9月 ポール・W・S・アンダーソン監督『バイオハザードV リトリビューション』（アメリカ・イギリス・ドイツ）
※日本公開は2012年9月。
- 2017年 1月 ポール・W・S・アンダーソン監督『バイオハザード: ザ・ファイナル』（アメリカ・イギリス・ドイツ）
※日本公開は2016年12月23日と先行上映）

3 日本の「ハロウィン」とは何か

日本のハロウィン研究は進んでいないこともあり（関口d 30）、日本のハロウィンを正確に捉えることは難しい。（大久保 18）他の外来の祝祭としてクリスマスやバレンタイン・デーと比べると、プレゼントがない、ロマンチックではない、怖いイメージがある等の理由からなかなか定着しなかったようだ。（関口c 45）日本のハロウィンのおもな受容・変容の流れはおもに5つに整理

できる。

- 1 年中行事として日本にいる外国人によって実施され、周辺の日本人もこれに参加した。
- 2 商店、企業等がおもにお菓子の販売促進を行った。
→1976年のモロゾフのハロウィン商戦がその先駆。
- 3 商店、企業等が仮装パレードを開催し、集客に務めた。
→1983年のキディランドからはじまり、1997年の東京ディズニーランドがその代表。
→1997年から始まったカワサキハロウィンももとはラッチャ デッラが中心となり商業振興を目的としたイベントであった。(大久保 2) 今では「1997年、まだ日本に「ハロウィン」がほとんど馴染みのなかった頃、川崎の街の元気と魅力を全国に向け発信することを主目的に、地元のエンターテイメント企業“チッタ”がスタートさせました！」(KAWAHALLO HISTORY)とあるように地域活性化の意味合いが強く加わったものもある。なお、商店街・地域活性化のための商業戦略となっている場合もある。(長沢 425)
- 4 ホラー映画・ゾンビ映画がハロウィンの「怖い」イメージと合い、若者に受け入れられた。(朝日新聞 1987)
- 5 若者が自然発生的にある特定の場所に集まり、コスプレをして大騒ぎをする。
→ 昨今の渋谷などがその代表。上記3・4が発展したものと考えられる。

今やSNSの影響は当たり前であるため、6つ目の要因とはしなかった。ハロウィンと言えば、ジャック・オー・ランタン、仮装、トリック・オア・トリートが行事を支える三大要素と言ってもよいだろう。当初百貨店がハロウィン商戦として考えていたのは、トリック・オア・トリートにちなんだお菓子類の販売促進であった。百貨店やメーカーは怖いイメージではなく、「明るく健康的な雰囲気になりたい」(朝日新聞 1987)との背景がある。ある程度の効果はあったものの、ハロウィンの中心とはならなかった。ジャック・オー・ランタンは飾り等として販売はされるものの、それほどの販売数は期待できない。1991年にはハロウィン商戦規模は50億円と言われていた。(朝日新聞 1991)しかし、2011年頃にはすでにハロウィンの市場規模は1000億円市場(DIAMOND ON LINE)と成長し、2016年の日本記念日協会によるハロウィンの市場規模は1345億円(日本記念日協会a)、2017年は1305億円(日本記念日協会b)、2018年は1240億円(日本記念日協会c)となり、クリスマスの市場規模が6000億円をはるかに超えているが(HAPPY HALLOWEEN PARTY)、クリスマスに次いで、バレンタイン・デー、ハロウィンが続いている。かぼちゃという食材として促進しようとしたが、かぼちゃは日本では冬至の際の食習慣があり、クリスマスのケーキに比べればかぼちゃではあまりにも地味だ。パンプキンパイ、ケーキ、プリン等、かぼちゃをテーマにしたデザートや料理等もこの季節になると店頭に並ぶが大きな効果はなかったようだ。では日本で定着したハロウィンとは一体何か。それは仮装である。1983年のキディランドの仮装パレードが定着したわけではない。1997年から始まったカワサキハロウィン東京ディズニーランド(以降、TDL)のディズニー・ハッピー・ハロウィンは以降継続して行われてきた。しかし、これも一般には定着しなかった。さらに関心を高めたのは2つの要因があるのではないだろうか。2005年にはTDLが9月12日から10月31日にディズニー・ハロウィン・パレードを実施、さらにパーク内の大人の仮装が3日間となったこと、2011年にはユニバーサル・スタジオ・ジャパン(以降、USJ)でも9月6日から11月3日にユニバーサル・サプライズ・ハロウィーンを開始

したことだ。USJはこの年からハロウィーン・ホラーナイトを始めたことも大きな起爆剤になったのではないだろうか。1997年以降はハロウィンの仮装（コスプレ）パレードを実施しているカワサキハロウィンもあるが、TDL並びにUSJはマスコミに頻繁に登場し、その周知力は凄まじいものがあるといってよいだろう。

日本では仮装がすでにオタク文化の影響を受け、コスプレという形で定着していた背景がある。本来、仮装＝コスプレではない。（佐々木a 3）（佐々木b 290-291）日本のハロウィンでの仮装の大きな特徴は、何でもありの状態になっていることだ。これは非日常化を表現するための変身であり、ハロウィンの趣旨を活かそうとする者もいれば、マンガ、アニメのキャラクターの扮装をする者、ゾンビの格好をする者が登場した。ハロウィンはもともと怖いものというイメージが定着したこともあり、ゾンビの仮装も定着したといってよいだろう。これには映画の影響はもちろんのこと、アメリカで2000年8月にゾンビウォークが行われたこと、2006年10月10日が世界ゾンビの日になったこと、さらに2010年10月よりアメリカでTV放映された『ウォーキング・デッド』が日本でも人気となったことは大きな要因である。さらに、こうしたコスプレもいわゆる百円ショップをはじめ、ドン・キホーテ、西武ロフト、東急ハンズなどをはじめネット等で手軽に安価で入手できることも背景として無視できないだろう。儀礼や祝祭は現在では消費、流通、情報を無視しては考えることはできないのだ。（石井 208）

若者は限られた空間でのコスプレに飽き足らず、ハロウィンに託つけて街中でこれを行うようになった。その象徴が東京では渋谷でのハロウィンなのだ。（佐々木c）（佐々木d）

エピローグ

ハロウィンは外来の祝祭儀礼であるが、その宗教的な意味合いは、大量生産・大量流通・大量消費の中で消えて行った。しかし、これは現代の儀礼文化と同様にキーワードが「持続」ではなく「変容」であることだ。（石井 ii）ハロウィンはヨーロッパからアメリカに伝えられると、子供を中心にした消費文化を背景にしたイベントへ変容した。しかし、これが日本に伝えられると、当初、百貨店などを中心にアメリカと同様の動きをしたものの、若者が選択したのは仮装をして楽しむ方向性であった。それもTDLやUSJのような限定された場所ではなく、最も若者が集まる渋谷がそのシンボルとなった。宗教的な意味を失いながら、祝祭の持つ「人が集まる」という最も重要な部分だけが生かされ、「見る＝見られる」、自然発生的な参加型イベントのハロウィンへと発展したのが渋谷の姿である。そこには若者の現実へのストレスの発散の場、普段はコスプレをしない人が、この日限定で思い切ってコスプレした非日常の世界が展開されている。店舗・企業等が思い描いた消費行動ではなく、クリスマスとは全く異なる行動が容認された若者の姿がハロウィンで表現されたのではないだろうか。

引証資料

『朝日新聞』、1987年10月28日、朝刊。

『朝日新聞』、1991年10月19日、夕刊。

石井研士、「日本人の一年と一生 変わりゆく日本人の心性」、春秋社、2005年2月。

大久保衣純、「日本のハロウィーン受容—カワサキハロハロウィン2014の実態調査から」、『國學

- 院雑誌」、第116巻第11号、國学院大学、2015年11月。
- 加藤迪男編、「記念日・祝日の事典」、東京堂出版、2006年4月。
- 新村出編、「広辞苑」、第6版、岩波書店、2008年1月。
- 佐々木隆a、「ポップカルチャーとしてのハロウィン」、「武蔵野学院大学日本総合研究所研究紀要」、第13輯、武蔵野学院大学日本総合研究所、2016年3月。
- 佐々木隆b、「ポップカルチャー論」、多生堂、2016年12月。
- 佐々木隆c、「渋谷ハロウィンとスクランブル交差点」、「むらおさ」、第30号、むらおさ同人会、2019年7月。
- 佐々木隆d、「渋谷ハロウィンから見えるもの」、「日欧比較文化研究」、第23号、日欧比較文化研究会、2019年10月。
- 関口英里a、「『文化装置』を通して見る現代消費社会のメカニズム—日本における『アメリカ』をめぐる」、大阪大学大学院言語文化研究科、博士論文、2001年3月。
- 関口英里b、「エンターテインメントとしての祝祭空間—ハロウィン分析を通して見るアメリカ社会—」、「同志社女子大学学術研究年報」、第54巻第1号、同志社女子大学、2003年12月。
- 関口英里c、「現代日本の消費空間—文化の仕掛けを読み解く」、世界思想社、2004年10月。
- 関口英里d、「日米のテーマパークにおけるハロウィン・イベントの展開—消費文化の生成の再構築をめぐる—」、「比較文化研究」、第80号、日本比較文化学会、2008年3月。
- 長沢利明「現代の年中行事」、民俗学事典編集委員会編、「民俗学事典」、丸善、2014年12月。
- 日本記念日協会a「2016年の『ハロウィン』の推計市場規模は前年比約10%増の約1345億円」(<http://www.kinenbilabo.jp/?p=470>) (2019年5月7日アクセス)
- 日本記念日協会b「2017年の『ハロウィン』の推計市場規模は前年比約3%減の約1305億円」(<http://www.kinenbilabo.jp/?p=607>) (2019年5月7日アクセス)
- 日本記念日協会c「2018年の『ハロウィン』の推計市場規模は前年比約5%減の約1240億円」(<http://www.kinenbilabo.jp/?p=719>) (2019)
- 本牧のあゆみ研究会編、「本牧のあゆみ」、新本牧地区開発計画局開発部新本牧開発室、1986年6月。
- モロゾフ「モロゾフの歩み」(http://www.morozoff.co.jp/company_ir/history_1970.html) (2019年8月24日アクセス)
- Bacon, Elizabeth. "HALLOWEEN", *The Encyclopedia Americana*. Vol.13. International edition. Danbury: Grolier, 1992.
- DIAMOND ON LINE「なぜ1000億円市場になれた？独自の進化を遂げた日本式ハロウィンの実態」
- HAPPY HALLOWEEN PARTY「ハロウィンの市場規模は4年で2倍、1220億円に！バレンタインやクリスマスの市場規模はどのくらい？」(<https://halloween-party.anyosio.jp/ハロウィンの市場規模は4年で2倍、1220億円に%ef%bc%81バレンタイン/>) (2019年5月7日アクセス)
- (<https://diamond.jp/articles/-/80897>) (2019年5月7日アクセス)
- “KAWAHALLO HISTORY” (http://lacittadella.co.jp/halloween2016_history/) (2019年5月3日アクセス)
- Morton, Lisa. a *The Halloween Encyclopedia*. Jefferson, North Carolina, and London: McFarland, 2003.

Morton, Lisa. *Trick or treat: a history of halloween*. London: Reaktion Books, 2007 (digital print), first 2012.

“Movies; Trick 'r Treat”

(<https://www.warnerbros.com/movies/trick-r-treat/>) (2019年5月5日アクセス)

Rogers, Nicholas. *Halloween: From Pagan Ritual to Party Night*. New York: Oxford University Press, 2002.